

# イスタンブル大学所蔵古代ウイグル語文書資料の歴史学的研究

松 井 太

弘前大学人文学部 准教授

## 緒 言

西暦 16 世紀頃にイスラーム化が完了する以前の中央アジア（東トルキスタン）地域の歴史研究にとって、中央アジア現地から発掘された古代ウイグル語（古代トルコ語）・モンゴル語・チベット語・漢語文献資料の利用は必要不可欠である。このうち、古代ウイグル語文献はほぼ西暦 9～14 世紀に年代比定され、その中には税役制度・土地制度・村落制度・交易慣習など、社会経済史的諸問題の解明に直接関係する世俗文書類（契約文書・行政命令文書・帳簿・書簡など）が含まれる。これらの古代ウイグル語世俗文書類は、現在、世界各国の研究機関に所蔵管理されている。そのうち、トルコのイスタンブル大学に所蔵される古代ウイグル語文書の写真複製資料について、文献学的解読校訂作業を提示しつつ中央アジア歴史研究に活用することが、本研究の主たる目的である。

本研究で対象とする古代ウイグル語文書の写真資料は、トルコ共和国の古代トルコ文献学者 Reşid Rahmeti Arat 教授がドイツ・ベルリン留学時代(1928～1933年)に、自身の将来の研究対象に予定していた数百点のドイツ探検隊将来文書を撮影し、イスタンブルに持ち帰ったものである。この写真資料には、第二次世界大戦中に原文書が失われたものが相当数含まれており、現在では実見調査できない出土文書の内容を知り得る唯一の資料として貴重である。さらに、これらのウイグル語文書は、斯界の第一人者であった Arat 教授が多数のドイツ所蔵資料からあえて選択しただけに、歴史学的・言語学的に重要な内容をもつものが多い。

Arat 教授はこれらの資料について研究未完のまま 1964 年に逝去され、当該の写真資料の管理は、現在、イスタンブル大学の Osman Fikri Sertkaya 教授（古代トルコ文献学専攻）に引き継がれた。申請者は、2002 年の国際学会において Sertkaya 教授の知遇を得、その後数回のイスタンブル訪問調査を通じて良好な研究協力

関係を構築しており、Arat 教授将来写真資料の一部について、申請者単独で、あるいは Sertkaya 教授と共同で、研究成果を公刊するに至っている<sup>1)</sup>。しかし、これまでの申請者による渡航調査は、時間的制約から決して十分ではなかったため、新たに本研究を通じてより包括的な校訂研究を行ない、その成果を歴史研究に活用しようとするものである。

## 研究実施の過程

当初の計画では、2010 年 2～3 月に 3 週間程度の渡航による調査を予定していた。しかし、幸いにも申請者は、2010 年度により長期にわたる在外研究の許可を得ることができたため、イスタンブルでの滞在調査期間を 2009 年 4 月 1 日～5 月 29 日の約 2 ヶ月間に延長し、本研究助成金を全てイスタンブルにおける滞在費用に充当した。その上で、期間中、Sertkaya 教授と共同して、古代ウイグル語文書写真資料の解読・校訂・トルコ語翻訳を行なった。なお、計画当初に検討していたイメージスキャナによる写真資料のデジタル画像複製は、保管責任に関わる諸般の問題から断念せざるを得なかった。

## 結 果

2 ヶ月間にわたる共同研究の結果として、155 件のウイグル語文書について、初歩的な解読・校訂作業を完了することができた。ただし、より正確な文献学的テキスト校訂と、その歴史学的な解釈にはさらに時間を要する。また共同研究者である Sertkaya 教授の意向により、本研究の主要な成果は、まずトルコ国内においてトルコ語で発表・出版される予定である。従って本報告書で研究成果の全容を述べることはできない。

ただし、今回の共同研究において、申請者が個人として研究・公刊することを許可された文書資料もあるので、以下には、これらの資料を主として考察を提示することとする。

## 考 察

申請者のこれまでの研究と関連して、最も重要となるのは、25点のウイグル文行政命令文書（供出命令文書）が新たに見出されたことである。これらの供出命令文書は、10～14世紀の遊牧ウイグル～モンゴル世界帝国支配下の中央アジア社会において、現地住民から種々の物件や労働力を供出させ、場合によってはその物件供出を正規の税役に代納することを目的として発行されたものであり、当時の税役制度や社会経済状況を考察する上での重要資料である。申請者は、これまでに日本・ドイツ・ロシア・中国をはじめとする世界各国に所蔵されているウイグル文供出命令文書の集成と包括的な校訂テキスト資料集の公刊準備を進めており、約65件の同種文書の存在を確認していたが、その約4割に相当する新資料が発現したことになる。この種の文書は、行政命令文書としておおむね定型的な書式を有しており<sup>2)</sup>、その点はArat教授旧蔵資料の多くも同様であった。ただし、うち5点は、行政文書としての機能をほぼ共通にしつつも、若干書式が異なり、むしろ税の納入に関わる領収証ともみなすことができる。一方、既知の供出命令文書では、文書の発行者名が原則として記されない点で、行政文書としては特異であった。既知の資料と新資料を勘案することにより、供出命令文書の領収証（納税証明書）としての機能と、その作成過程を含めた行政システム内での処理過程を解明できると考えられる。この点は、上記の通り申請者が準備中の資料集において論じる予定である。

一方、ウイグル語世俗文書の中で、これまで多くの研究者の関心を惹いてきた諸種の契約文書（売買契、消費貸借契・賃貸借契、遺言・財産委託契）についても、既公刊資料には知られない形式の契約も含め、あらためて多くの新資料が確認できた。それらについても、まずはトルコ語で公刊される予定である。また、既公刊の校訂テキストとそれを歴史学的に利用した研究成果も、いくつかの点で深化させることができた。例えば、申請者が2006年に公刊したベルリン現存のウイグル語契約文書2断片について<sup>3)</sup>、それらを直に接合すべき断片を発見することができた。その結果として再構された校訂テキストを、既知のウイグル文契約文書の内容と比較することで、10～12世紀のウイグル社会における現金税の様態を知ることが出来た。この点については、本年8月末刊行の拙稿で詳細に論じたところである<sup>4)</sup>。

また、Arat教授が撮影した資料は全てウイグル語と

考えられてきたが、今回、申請者は、ソグド語断片1点と、ソグド語・ウイグル語両語文書の断片1点を見出すことが出来た。周知のように、西暦8世紀～11世紀にかけて、イラン系ソグド商業民とウイグル遊牧民とは政治的・経済的・文化的に密接に関係しており、ウイグル語を表記するウイグル文字も元来はソグド語を表記していたソグド文字に由来するものであった。特に古層のウイグル語文書の書体はソグド文字と酷似しており、それゆえにArat教授も誤解したのであろう。申請者とSertkaya教授はともにソグド語の読解を善くしないため、これらの資料については、日本におけるソグド語文献研究の第一人者である吉田豊氏（京都大学教授）の助力を仰ぎ、内容を知ることが出来た。その結果、ソグド語のみの資料はマニ教徒の書簡の末尾部分であり、「隊商、キャラバン」に言及していることが判明した。また後者のソグド語・ウイグル語両語断片のうち、ソグド語部分は棉布の出納に関連し、ウイグル語部分は「官布（通貨的に使用される布帛）」の出納および商品輸送に係る帳簿の断簡であることが判明した。小断片とはいえ、西暦10～11世紀前後のウイグル人・ソグド人の経済的関係や、ウイグル遊牧民がシルクロード交易の分野に新出している状況をうかがわせる重要な資料といえる。さらに、後者の両語断片は、やはりベルリン現存のソグド語・ウイグル語両語文書と同一写本に属することが判明した。以上の点をふまえた詳細な研究報告を、本年10月に吐魯番（中国・新疆維吾爾自治区）で開催される国際学会“Multilingualism and Society in Ancient Central Asia”で提示する予定である。

## 要 約

イスタンブール大学所蔵の古代ウイグル語写真資料についての包括的な解読研究を行なった。その結果として準備中の校訂テキストは、まずトルコ国内で刊行する予定である。一方で、研究発表を利用された資料については、個別の論考において校訂テキストを提示しつつ、その歴史的背景を明らかにしていく予定である。

## 謝 辞

第一に、本研究の実施は、財団法人三島海雲記念財団の学術奨励金助成があつてはじめて可能となったことを特記し、財団の関係各位に深甚の謝意を表わしたい。また、ユルドウズ工科大学の Mehmet Ölmez 先生、イスタンブール大学の Özcan Tabakları 先生、Feryal Korkmaz

先生には、イスタンブル滞在中に多岐にわたり便宜を図っていただいた。併せてお礼を申し上げます。

## 文 献

- 1) 松井太：人文社会論叢（人文科学篇），**19**, 13-25, 2008; O. F. Sertkaya, D. Matsui: Aspects of Research into Central Asian Buddhism (P. Zieme, ed.), pp. 343-349, Brepols Publisher, 2008.
- 2) 松井太：東洋学報，**79-4**, 026-050, 1998; 松井太：内陸アジア言語の研究，**13**, 1-62, 1998; 松井太：人文社会論叢（人文科学篇），**10**, 51-72, 2003.
- 3) 松井太：人文社会論叢（人文科学篇），**15**, 35-60, 2006.
- 4) 松井太：人文社会論叢（人文科学篇），**24**, 25-54, 2010.